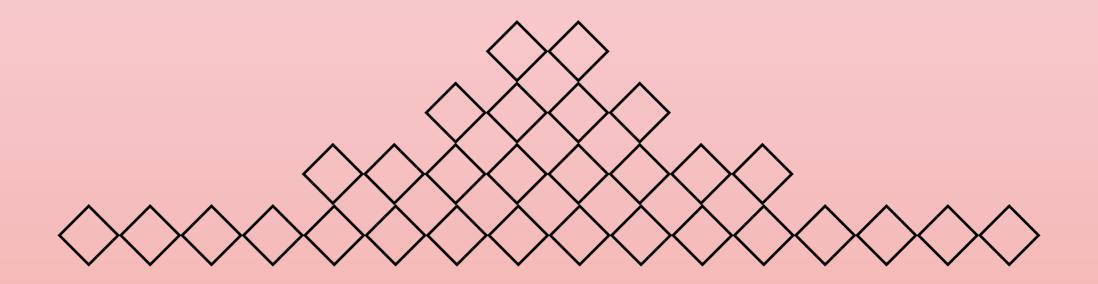
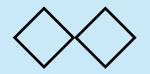


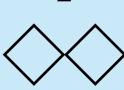
アルゴリズム・データ構造 I 第4回 JavaScript入門 2 一関数と配列を使ってみよう

名城大学理工学部情報工学科 山本修身





関数の作り方と利用方法



大域環境に関数を定義する場合,

```
function foo(x, y, z){
    var s = x + y + z
    return s
}
のように書く. これは,
var foo = function(x, y, z){
    var s = x + y + z
    return s
}
と同じことを意味する. x, y, zは引数であり, sは返り値と呼ばれる.
```

• 関数を実際に実行する場合には、

```
foo(2, 3, 4)
```

のように値を後ろにつけて呼び出す。実は、foo(2, 3, 4, 5, 6)として呼び出しても間違いではない。後ろの f_{i} 0は読み込まれないだけ。

◇◇配列と関数の練習1:ヒストグラムを作る (1)ぐ

- 乱数を発生させて、その乱数がどのように分布しているかを調べてみる。
 - まず、Math.random()を用いて、分布を調べる。

```
function rand_test(n, m){
  var a = []
  for (var i = 0; i < m; i++) a[i] = 0
  for (var i = 0; i < n; i++){
    x = Math.random()
    a[Math.floor(x * m)] += 1
  }
  for (var i = 0; i < m; i++)
    puts(i + " " + a[i])
  }
    大の整数を返す

rand_test(10000, 100)
```

◇◇配列と関数の練習1:ヒストグラムを作る (2)◇

このプログラムを実行すると、以下のようになる.

97 115

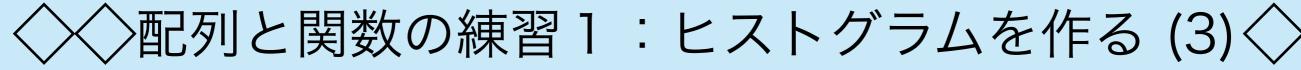
98 101

99 115

結果は良さそうだが、結果の 全体を見渡すのが難しい! スクロールしないと見えない

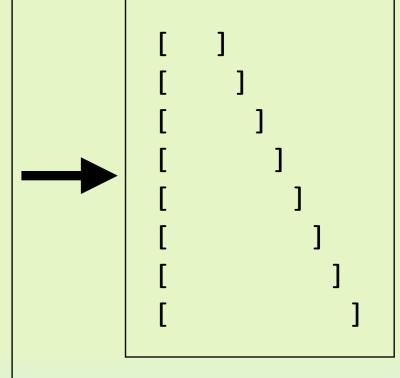


見やすく表示することを目指す



プログラムを改変する場合には、まず、必要道具を作ってそれを使って改造する。まず、整数を右詰めで表示するための関数を書く。その前に、空白がいくつか続く文字列を返す関数を作る。<u>関数を作った</u>らそれの単体テストをすぐに行う。

```
function spaces(n){
   var s =
   for (var i = 0; i < n; i++) s += ' '
   return s
                  spaces(n) の単体テスト
function test spaces(){
   for (var i = 2; i < 10; i++)
    puts("[" + spaces(i) + "]")
test spaces()
```



◇◇配列と関数の練習1:ヒストグラムを作る (4)<

改めて整数を右詰めで表示するための関数を書く.

spaces(n)の定義がこの上に必要

```
function i2s(i, n){
   var m = 10
   for (var j = 0; j < 5; j++){
     if (i >= m) n -= 1
    m = m * 10
   return spaces(n) + i
             i2s(i, n) の単体テスト
for (var i = 0; i < 10; i++) {
   for (var j = 0; j < 10; j++)
      s += i2s(i * j, 3)
  puts(s)
                        九九の表
```

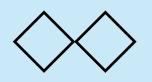
```
2 3 4 5
4 6 8 10
                       14
                                18
         12
                  18
              15
                       21
                           24
                                27
  8 12
         16
              20
                  24
                       28
                                36
                           32
 10
     15
          20
              25
                  30
                       35
                                45
 12
     18
         24
              30
                  36
                       42
                                54
         28
            35
                  42
                                63
     21
                       49
     24
         32
             40
                                72
 16
                       56
18
         36
             45
                  54
                      63
                                81
```

◇◇◇配列と関数の練習1:ヒストグラムを作る (5)<

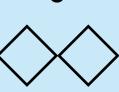
ヒストグラムの100個の要素を10x10の並びで表示する。

spaces(n), i2s(n) の定義がこの上に必要

rand test(10000, 100)



配列の初期化についての注意



JavaScriptの配列はCの配列とは違います.

int
$$a[20] = \{0\};$$

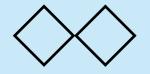




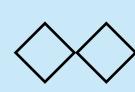
のような書き方はできません。空の配列を作ってそこにデータを入れ るのか初期化する最も簡単な方法です. したがって.

```
var a = []
for (var i = 0; i < 20; i++) a[i] = 0
```

のように書きます



配列の長さについて



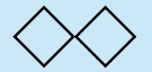
• 配列の長さは.lengthを付けることで調べることができる. すなわち,

```
a = [3, 4, 5, 6]
puts(a.length)
```

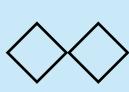
を実行すれば、結果は4となります。また、効率の良い方法ではありませんが、

```
var i = 0
while (a[i] != undefined) i += 1
puts(i)
```

で調べることもできます.

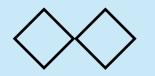


再帰的な関数定義とは

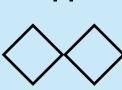


再帰的な関数:ある関数の定義の中でその関数を参照している関数の

```
がいれる。 s_0 = 0 s_n = s_{n-1} + n
```



階乗と組合せ数の計算(1)

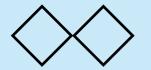


階乗を用いて組み合せの計算を行う.表現できる桁数に制限があるので.入力がある程度大きくなると正しく計算できなくなる

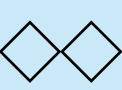
```
function fact(n){
   if (n <= 1) return 1
  else return fact(n - 1) * n
function comb(n, m){
   return fact(n) / fact(m) / fact(n - m)
for (n = 0; n < 8; n++){
 var s = ""
 for (m = 0; m \le n; m++)
     s = s + " + comb(n, m)
 puts(s)
```

$$_{n}C_{m} = \frac{n!}{m!(n-m)!}$$

```
1
1 1
1 2 1
1 3 3 1
1 4 6 4 1
1 5 10 10 5 1
1 6 15 20 15 6 1
1 7 21 35 35 21 7 1
```

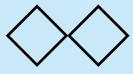


階乗と組合せ数の計算 (2)

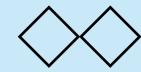


• 階乗を用いないで組み合せを計算する関数comb(n, m)をそのまま再帰的に計算することもできる. $_nC_0=_nC_n=1$ $_nC_m=_{n-1}C_m+_{n-1}C_{m-1}$

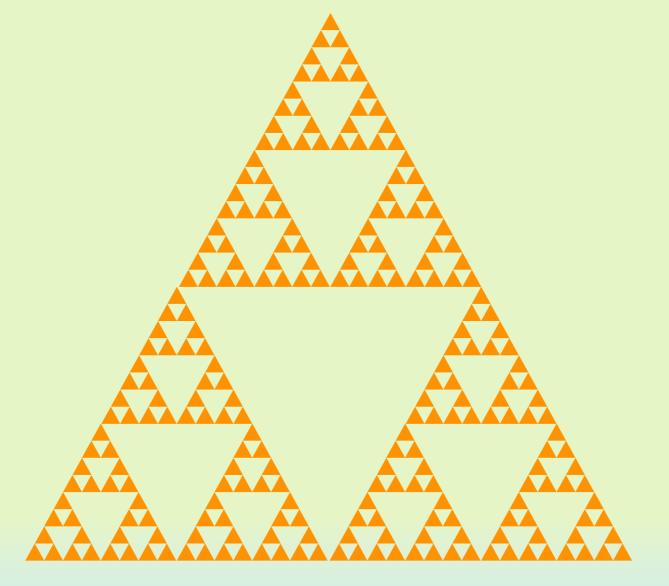
```
function comb(n, m){
   if (n == m \mid | m == 0) return 1
   else return comb(n - 1, m - 1) + comb(n - 1, m)
for (n = 0; n < 8; n++){
 var s = ""
  for (m = 0; m \le n; m++)
     s = s + " " + comb(n, m)
 puts(s)
                                            5 10 10 5 1
                                            6 15 20 15 6 1
                                            7 21 35 35 21 7 1
```



再帰構造の例 - シェルピンスキーガスケット - (1) 〈

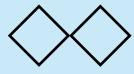


• シェルピンスキーガスケットはシェルピンスキー(1882-1969) によって考案された以下のような図形である.

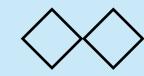


Waclaw Sierpinski

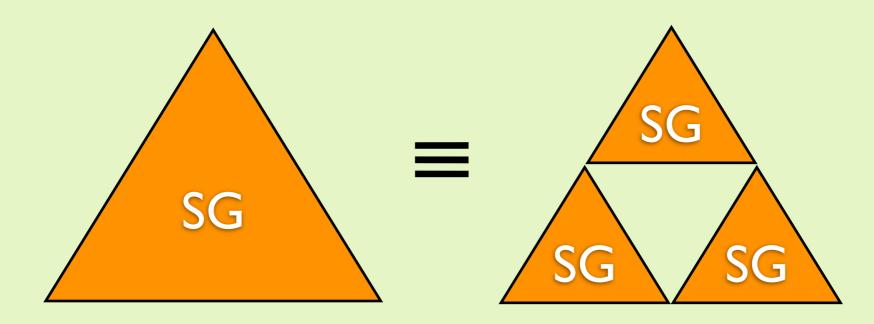
ドローツールで簡 単に作れる



再帰構造の例 - シェルピンスキーガスケット - (2)



• シェルピンスキーガスケット (SG) は以下のように定義される

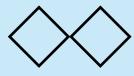


SGの作り方(再帰的な説明):

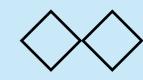
- I. SGを 1 つ用意する
- 2. このSGのコピーを2つ用意する
- 3. それぞれを半分に縮小する
- 4. 3つの縮小されたSGを三角状に並べる

そもそもSGがないからSGを作るわけで最初からSGがあればSGは作らない...

鶏が先か卵が先か?



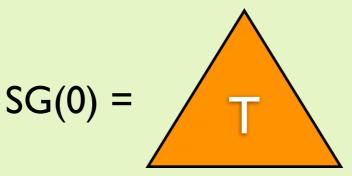
再帰構造の例 - シェルピンスキーガスケット - (3)



もともとシェルピンスキーガスケットを持っていないので,シェルピンスキーガスケットは作れない.

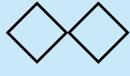
ところが..

シェルピンスキーガスケットの近似を考えれば作ることができる!



SG(3)を作るにはSG(2)があればよい. SG(2)を作るにはSG(1)があればよい. SG(1)を作るにはSG(0)があればよい. SG(0)は普通の三角形なので作れる SG(n-1) SG(n-1) SG(n-1)

n→∞のときSG(n)→SGとなる. SGの近似を求めるアルゴリズムとなる.

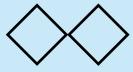


> 再帰構造の例 - シェルピンスキーガスケット - (4)

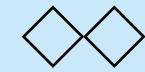
```
\Diamond \Diamond
```

```
シェルピンスキーガスケット
function middle_point(p1, p2){
                                 を実際に描いてみる。
  x1 = p1[0]; y1 = p1[1]
  x2 = p2[0]; y2 = p2[1]
  return [(x1 + x2) / 2, (y1 + y2) / 2]
}
function SG(p1, p2, p3, level){
  if (level == 0)
     draw_triangle(p1, p2, p3)
                                   draw triangle(p1, p2, p3)に
  else {
     var m1 = middle point(p1, p2)
                                    よって黒い三角形を描画することが
     var m2 = middle point(p2, p3)
                                   できる.
     var m3 = middle point(p3, p1)
     SG(p1, m1, m3, level - 1)
     SG(m1, p2, m2, level - 1)
     SG(m3, m2, p3, level - 1)
                                プログラミング環境は「プログラミング
                                環境(描画環境付き)」を用いる
}
```

SG([0.5, 1], [0, 0], [1, 0], 7)



再帰構造の例 - シェルピンスキーガスケット - (5)



プログラムを実行すると以下のように表示される。

